教育長の視点 その先にあるもの

海とともに育む「これからの時代を生きる力」
～小さな町だからこそ守りたい、一人ひとりに寄り添う教育～

佐賀県東松浦郡玄海町

全国の教育長に教育施策の立案の視点について尋ねる本コーナー。第17回は、町内の小・中学校の統合により開校した義務教育学校「玄海みらい学園」の初代学園長を務めた佐賀県玄海町の岩崎一男教育長に話を聞いた。県内で最も人口が少ない同町の「これからの時代を生きる力」を育む施策と、野鳥観察家、切り絵作家、音楽家などの多彩な顔を持つ岩崎教育長の人間性に迫る。

教育長として子どもの成長に触れる日々

齋藤　岩崎教育長は「玄海みらい学園」の学園長を務めた７年後に、教育長に就任されたと伺っています。

岩崎　児童生徒数が減少し、町内の各校では単学級や複式学級化が進んでいました。本町では、子どもが多様な仲間と切磋琢磨しながら学び合うことができる環境を維持していく必要がありました。そこでまず、2010年度に小学校３校が１校に統合、さらに2015年度に小学校２校、中学校２校が統合されました。そうして町内唯一の義務教育機関として玄海みらい学園を開校し、私は初代学園長を務めました。教育委員会は、統廃合で広くなった校区の子どもたちのために11台のスクールバスを準備して、町内全地域からの安全な通学を実現させました。

しかし、開校から２年ほどは、学校が落ち着かない状況が続きました。全校で500人を超える大人数の環境に戸惑う子どももいて、生活指導が必要な場面も度々見られました。

齋藤　その混乱を、町はどのように乗り越えたのですか。

岩崎　人的支援を強化することで乗り越えました。具体的には学習生活支援員、学力向上支援講師など、合計20人規模の会計年度職員を町費で配置して教室に複数の目を置くことで、子ども一人ひとりに教職員の目が行き届く学習環境を取り戻していきました。

齋藤　玄海町教育委員会教育課は、玄海みらい学園内に設置されていますが、学園長から教育長に変わられてからは、どのような視点で子どもの姿を見られていますか。

岩崎　校内に教育委員会の組織が置かれることのメリットは、学校と行政・教育委員会間の情報共有や連携が円滑に行われることはもちろん、子どもや先生の日々の様子を丁寧に把握できることも挙げられます。先生方と教育委員会の職員は一人ひとりの子どもの成長や変化について語り合います。一般に教育長は「学校」を見るものですが、幸運なことに、私は「学校」だけでなく、「子ども」も見ることができています。

海洋教育や公営学習塾など、独自の教育施策を展開

齋藤　玄海町の教育の特徴と言えば、地域資源を生かした「海洋教育」ですね。

岩崎　玄海みらい学園の学園長時代には、「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の４つの視点に基づき、各学年で体験活動を行う海洋教育を続けてきました（**P. 2写真１**）。教育長に就任後は、玄海みらい学園だけでなく、玄海町の２つの保育所、佐賀県立唐津青翔高校と連携し、笹川平和財団の海洋教育パイオニアスクールプログラムの認定を受けました。現在は総合的な学習の時間や様々な教科の中で、「学力向上に向けた海洋教育」を実践しています。

齋藤　海を題材に、各教科等で普遍的

お話を伺った教育長



玄海町教育委員会 教育長
岩崎一男
いわさき・かずお

義務教育学校「玄海みらい学園」の初代学園長（校長）などを歴任し、長年、地域の教育を支えてきた。玄海町教育長に就任した後は、電子黒板や１人１台端末の整備といったICT教育の推進、町独自の保・小・中一貫の英語教育の導入、町立図書館のリニューアルを始めとする町民の読書環境の整備などに尽力。心豊かな児童生徒の育成に努める傍ら、切り絵作家としても活躍する。

玄海町 概要

佐賀県の西北部、東松浦半島の中央に位置する。リアス式海岸の美しい景観や、棚田百選にも選ばれた「浜野浦の棚田」などの豊かな自然を有する。温暖な気候を生かした農畜産業や、マダイなどの養殖漁業が盛んで、エネルギー産業とともに地域の経済や暮らしを支えている。

人口 約4,600人　面積 35.92㎢
町立学校数 義務教育学校1校
児童生徒数 322人　教員数 約60人

聞き手



VIEW next編集部
小中領域担当責任者
齋藤輝之
さいとう・てるゆき





写真１　九州と台湾の小・中・高生が海をテーマとした学習の成果を発表する「海洋教育玄海子どもサミット」を開催。教育委員会は小学校低学年から海洋教育に取り組めるよう、副読本を製作した。なお、副読本の表紙の切り絵は岩崎教育長によるもの。

な学び方を育んでいるのですね。学校種を超えた、町ぐるみの取り組みになっている点が素晴らしいと思いました。

岩崎　本町の教育にはほかにも特徴があります。それが、町内在住の小・中学生を対象とした公営学習塾による学習支援です。玄海みらい学園に隣接する敷地で大手塾の講師が授業を行っています（**写真２**）。対象は４年生からで、４年生は国語、算数、５・６年生は国語、算数、英語、７年生（中学生）からは社会、理科を加えた５教科を、いずれも月3,300円で学ぶことができます。

齋藤　公営学習塾は学校から徒歩数分の場所にあるので、小学生は放課後に、中学生は部活動を終えてから塾で学ぶことができますね。

岩崎　これまでは通塾のために、隣の唐津市まで往復60分かけて送迎していた保護者も少なくありませんでした。その負担がなくなることもあって、保護者にはとても歓迎され、７年生以降は生徒の約７割が利用しています。



写真２　公営学習塾は４年生以上が利用可能。７年生以降は生徒の約７割が利用し、高校入試対策などに役立てている。

野鳥観察、切り絵、ギターと、多彩な趣味を通じて町に貢献

齋藤　海洋教育に力を入れてきた玄海みらい学園ですが、2026年６月には、野生生物保護功労者表彰の文部科学大臣賞を受賞していますね。

岩崎　環境や野生生物の保護をテーマにした、学年別の学習が評価されました。本町では四季折々の野鳥を目にすることができます。そうした本町の自然の魅力を子どもたちに知ってもらおうと、４～６年生の野鳥観察のクラブ活動に、私は指導者として参加しています（**写真３**）。実は野鳥観察は、私の30年来の趣味でもあるのです。



写真３　野鳥を観察する子どもたちと岩崎教育長。玄海町はリアス式海岸に面しているため、多数の海鳥や水鳥、渡り鳥が飛来する。

齋藤　趣味を生かして地域の社会教育に貢献されているのですね。趣味と言えば、教育長は切り絵作家としても活動していて、佐賀県内で個展を開かれたこともありますよね。

岩崎　切り絵も約30年続けています。校長になってからは毎年、卒業生一人ひとりの似顔絵を切り絵で作り、退職時までに約500人の生徒に贈りました。海洋教育の副読本の表紙も、私の切り絵を採用してもらっています（**写真１**）。

　また、私はギターも大好きで、15年以上にわたって地域の公民館でギター教室の講師を務めています。受講者は小学５年生から80代までで、「前よりも指の動きがよくなりましたね」「今の響き、いいですよ」などと、受講者一人ひとりに寄り添ってギターの上達を支援することが、教育に携わる私にとっては学びになっています。

町ぐるみで子どもに育みたい「これからの時代を生きる力」

齋藤　玄海町は佐賀県の全市町の中で人口が最も少ない自治体であり、ほかの多くの自治体同様、人口減少が続いています。2026年２月には、町の将来像の実現と人口減少への対応を一体的に位置づけた「玄海町みらい計画」を策定されました。岩崎教育長は玄海みらい学園を中心に、どのような教育ビジョンを描いていますか。

岩崎　「玄海町みらい計画」は町民や事業者の声を基に策定されたもので、教育の分野では、「人生を豊かに過ごせる機会が多く、いきいきしている子どもや大人が多い」ことを目指しています。私は、子どもたちが本町はもちろん、国内外の様々な場所で活躍してくれることを願っています。そして、どこにいても自分が育った玄海町のことを誇りに思い、町に貢献したいという気持ちを持ち続ける子どもをこれからも育てていきたいと考えています。

　本町では現在、町立図書館が工事中で、2027年９月には、多世代が集まり、にぎわう交流拠点「海の見える図書館」としてリニューアルオープンする予定です。全国で学校の統廃合が進んでいますが、一方で地区から子どもたちの元気な姿が見られなくなるとの声も聞かれます。地域とのつながりを深める場を意図的につくることが必要です。海の見える図書館を、いろいろな世代の人たちが集い、交流する場にしていきたいと思っています。

齋藤　校長として子ども一人ひとりの幸せを願い、切り絵を贈った頃の思いは、教育長となった今も心の中にお持ちであると、お話を伺って強く感じました。ありがとうございました。